

一笑会例会資料 (2024/2/3)

- テーマ:
- どのような家康から、どうした家康
 - 家康の夢は、どう引き継がれたのか

資料:

1. 江戸時代・社会生活・災害	3枚	1~3頁
2. 明治時代・災害	1枚	4頁
3. 厂代徳川将軍(広辞苑)	2枚	5-6頁
4. 徳川家康年代概略	1枚	7頁
5. 徳川家康の江戸移転	4枚	8-11頁
		<hr/>
		11枚

(久保田 秀夫)

○1500年代

○1600年代

- 1500 京都大火、20,000戸焼失
- 1502 若狭土一揆、守護武田父子を殺す
- 1506 加賀一向一揆再び蜂起

- 1511 山城土一揆、徳政を強請
- 1512 関東地方飢饉
- 1514 幕府、死闘を禁じる
- 1516 再び死闘禁止令
- 1520 京都土一揆

- 1527 近江坂本徳政一揆

- 1531 一向一揆、越前朝倉教景を破る
- 1532 山科本願寺、法華宗他に焼かれる
- 1533 摂津一向一揆 ◆1534 信長生、尾張
- 1539 会津の百姓蜂起 ▼1537 秀吉生、尾張
- 1540 諸国疫病流行

- 1544 諸国洪水 △1542 家康生、岡崎

- 1562 京都土一揆 △家康、信長→三河平定
- 1563 三浦一向一揆
- 1566 遠江の農民、徳政を要求
- 1570 土一揆各地に起こる

- 1571 信長叡山焼討ち △三方原、信玄に負
- 1573 信長、伊勢長島の一向け一揆を討つ
- 1580 加賀一揆蜂起

- 1582 甲斐農民の一揆（以下農民統制）
本能寺の変（◆織田信長、49歳自死）
- 1585 秀吉、紀伊・根来・雑賀の一揆討つ
羽柴秀吉、関白となる、翌年太政大臣
- 1588 秀吉、刀狩令発する。バテレン追放令87
- 1590 小田原城征伐（秀吉全国統一）、
家康関東に入封、江戸城に入る

- 1591 秀吉、全国の戸口調査、
士農工商の身分制度を定める
- 1592 文禄の役（朝鮮出兵）
- 1594 伏見城なり、秀吉移る。1595秀次自殺
- 1596 畿内大地震
- 1597 慶長の役（再び朝鮮に出兵）
- 1598 8月秀吉死62歳 △家康五大老の筆頭
- 1600 9月、関ヶ原の戦い（家康大勝59歳）

- 1601 東海道に傳馬制を布く
- 1602 中仙道の傳馬制を布く
- 1603 江戸日本橋を修造、家康征夷代將軍
- 1604 五街道に一里塚を置く
- 1605 煙草流行する
- 1607 富士川を開く、家康駿府に移る
- 1609 銚子に築港、煙草を禁じる
- 1610 木曾街道、伊那川橋補修

- 1616 人身売買を禁ず。箱根駅を置く。
- 1617 江戸吉原遊郭の開設を許す。

- 1623 五人組制を施行。家康日光に改葬
- 1625 関所・駅伝の制を定める
- 1626 重ねて人身売買を禁じる
- 1628 百姓の衣類木綿に限る

- 1639 鎖国を断行、宗門改め
- 1640 大名以下の奢りを禁じる

- 1641 江戸大火、2000戸を焼失
- 1642 諸国飢饉、百姓の米食禁じる
- 1649 大名・旗本に儉約令

- 1652 浪人改め
- 1657 江戸明暦の大火（死者10万）
- 1659 道中奉行を置く

- 1662 西日本大地震
- 1663 三都に町飛脚組合創立
- 1666 百姓の衣服の華美染色を禁じる
- 1668 江戸大火、儉約令
- 1669 西日本洪水。福井、中津大火
- 1670 東海道・関東洪水。越後村上大地震。
大坂津浪。明石大暴風雨。

- 1672 浄瑠璃坂の仇討ち
- 1674 諸国飢饉
- 1675 関東諸国鉄砲私蔵を禁じる
- 1678 諸国暴風雨洪水

- 1681 水戸大火。米価騰貴、江戸府内に飢民
- 1682 茶店給仕女・私娼を禁ずる
- 1690 元禄模様流行 1698 江戸大火
- 1694 各駅助郷を定める （勅額火事）

社会生活・災害” (2)

○1700年代

- 1703 大石良雄ら赤穂浪士46人切腹
 1707 富士山噴火 (宝永山)
-
- 1711 江戸大火。西国・東海道大風雨
 1712 越後村上の農民強訴
 1713 幕領の大庄屋廃止
 1714 貨幣改鑄 (元禄以前に戻す)
 1716 一揆
 1717 江戸大火、大名火消創設
 1720 江戸大火、江戸町火消いろは組倉
 1721 江戸大火6度、14万戸焼失
 1723 出羽幕領一揆
 1729 全国耕地300万町歩
-
- 1733 江戸米一揆
-
- 1741 農民の強訴・逃散禁止
 -71 農民一揆繁く10年50件超
 1742 関東大水害
-
- 1757 関東洪水。東北飢饉。
 1759 日向児湯郡百姓一揆
 1760 江戸大火
-
- 1765 関東の農民20万の大一揆
 1767 諸国干害
 1768 大坂の一揆、佐渡の一揆
-
- 1770-71 諸国旱害
 1772 江戸行人坂大火
 1773 飛騨の一揆、近藩出兵
 1777 信濃の農民、代官に強訴
 1779 大隅櫻島噴火 1778ロシア船
 1780 関東大洪水 蝦夷地に通商求
-
- 1783 浅間山噴火、天明の大飢饉~88
 1784 奥州大飢饉、死者10万
 農民一揆、連年10件を越す
 1786 江戸大火、開府以来の関東大水害
 1787 米価高騰・天明の打ち壊し
 1788 京都大火、皇居炎上
 1798 百姓の強訴を禁ず

○1800年代

- 1804 出羽大地震、象潟湖崩れる
 1806 江戸大火
 1810 諸国飢饉
-
- 1811 強訴・徒党再禁止令
 1812 浪人取締令
 1816 畿内・東海道防風洪水、駿河一揆
 1818 日立一揆
 1819 阿波・摂津一揆
-
- 1822 全国人口調査。西国にコレラ流行
 1823 諸国干害、紀伊一揆
 1826 伊予に逃散おこる
 1828 全国の人口、2720万。越後大地震。
 1829 江戸大火
 1830 京畿大地震
-
- 1831
 1832 この年より全国的大飢饉つづく
 1833 京都エライこっちゃ踊り
 1836 甲斐郡内騒動
-
- 1842 儉約令
 1843 町人の武芸稽古禁止令
 1847 信濃善光寺付近大地震
-
- 1852 近畿風水害
 1853 関東大地震、陸奥一揆
 1854 下田地震、大津波
 紀伊農民一揆
 1855 江戸大地震 (藤田東湖圧死)
 1858 コレラ流行 (死者3万)
 1859 安政の大獄
-
- 1859-63 信濃伊那郡南山暴動
 1865 摂津・隠岐に打壊し運動
 1866 江戸・大坂に打壊し運動起る
 1867 ええじゃないか運動 (名古屋)
 1868 明治維新 (明治1)
 1869 全国に農民一揆
 華族・士族・平民の別を定める
 1870 平民の名字を許す
-
- 1877 全国にコレラ流行、死者6,817。

社会生活・災害(3)

1880 東京大風雨。新潟大火。大阪大火。

1871 横浜毎日新聞発刊

1872 東京・大阪間電信開通

新橋・横浜間鉄道開通

東京銀座赤煉瓦街成る

第一国立銀行

1875 東京（中央）気象台設置

1885 隅田川洪水

1881 **国会開設の詔**

1882 **日本銀行設立**

1887 東京に電灯つく

1883 鹿鳴館落成

1888 磐梯山噴火

1886 帝国大学令公布

1889 和歌山県大水害

1889 東海道本線全通

1890 各地に米騒動起きる

大日本帝国憲法・皇室典範発布

1894 **日清戦争（清国に宣戦）、8月**

1890 大日本労働者同盟会結成

1900 **義和団事件により出兵（北清事件）**

商法公布

1904 **ロシアに宣戦（日露戦争）**

大名区分【近世大名の区分】

1/19/2024

親藩	三家：（尾張・紀伊・水戸） 三郷：（田安・一橋・清水） 家内：（福井・松江・津山・高松・西条・浜田・会津などの松平と久松）
譜代大名	井伊・酒井・本多・榊原・大久保・土井・水野・戸田・小笠原・牧野 内藤・稲葉・堀田・阿部・久世・間部・松平（家康以前の分流）・他
外様大名	旧族大名： 伊藤、島津、毛利、上杉、佐竹、鍋島、津軽、松浦、大村、 宗、相良、ほか 織豊大名： 前田、細川、黒田、浅野、池田（岡山・鳥取）、山内、 蜂須賀、藤堂、仙石、有馬、ほか

1868 明治維新(m1)	1951 関東地方大雪。三原山大噴火。ルース台風。
1877 全国にコレラ流行 (死者6817)	1952 十勝沖地震。鳥取大火。(s27)
1878 高島炭鉱夫大暴動	1953 西日本水害。和歌山県水害。
1880 東京大風雨。新潟・大坂大火。群馬農民一揆。	1954 第5福竜丸ビキニ水爆被災事件(s29)
1883 高島炭鉱爆発	洞爺丸台風。。。▼1955:新潟大火(s30)
1885 隅田川洪水	1956 能代市大火。大館市大火。魚津市大火。
1886 コレラ死者約11万人	1957 西九州豪雨。諫早水害。
1887 東京に電灯つく	1958 阿蘇山大噴火、死者12名。狩野川台風。
1888 磐梯山噴火	伊豆地方大水害。(s33)
1889 和歌山県大水害	1959 伊勢湾台風、死者5000名(s34)
1890 大日本労働者同盟会結成、各地に米騒動	1961 第二室戸台風。鹿児島市大火。
1892 東京神田・日本橋大火	(1962 農業人口、全労働者の3割をわる)
1898 吾妻山噴火	1963 裏日本豪雪、死者76名。(s37)
1894 庄内地方大地震	国鉄鶴見事故、死者161名。
1895 新潟県新発田火災	1966 全日空羽田沖墜落事故(133人全員死亡)
1896 三陸地方大津波、赤痢大流行	1967 自動車保有台数:1000万台突破
1899 横浜大火、ペスト神戸に発生	1968 えびの地震。。。▼1974:鳥海山噴火
1900 東京にペスト流行。男女の混浴を禁止	1976 台風17号全国的被害、長良川の堤防決壊。
1902 福井大火	酒田大火
1905 台湾大地震	1978 伊豆大島近海地震。宮城県沖地震。
1907 函館大火、足尾銅山罷業	1979 木曾御岳山噴火(s54)
1909 大阪大火(北半罹災)、近江・美濃大地震	1980 冷害深刻化
1911 東京浅草新吉原大火	1981 敦賀市原子力発電所の放射能漏水事件。
1912 タクシー始まる(m45,t1)	石狩川流域の水害。小貝川の堤防決壊。
1913 東京神田大火。函館大火。	北炭夕張炭鉱災害。
1914 櫻島噴火	1983 日本海中部地震(死者・行方不明102)。
1917 米沢大火	三宅島大噴火:→ 1984:長野県西部地震
1918 インフルエンザ(スペイン風邪)大流行(t7)	1985 日航ジャンボ機墜落事故(死者520人)
1920 日本最初のメーデー(t9)	櫻島南岳連続噴火(s60)
1923 関東大震災(死者20万、焼失40万戸)(t12)	1991 島原半島雲仙普賢岳噴火(h3)
1930 伊豆相模大地震。農村の危機深刻化。(s5)	1993 北海道南西部沖地震
1933 三陸大津波	1995 阪神淡路大地震(死者約6000人)
1934 函館大火。関西地方大暴風雨(室戸台風)	2000 北海道有珠山噴火、鳥取市地震(h12)
1935 東北凶作地の娘の身売問題化	三宅島再噴火で全島避難
1945 第一次農地改革(s20)	2004 スマトラ沖地震(M9.0)
1948 福井大地震。アイオン台風。東京・東北豪雨	インド洋沿岸に大津波死者12万以上
1950 熱海大火。ジェーン台風。	2007 新潟中越地震m6強
	2011 東日本大震災3.11(m6.9)(h23)

初代 徳川初代将軍 (在位1603~1605)。松平広忠の長子。幼名、竹千代。初名、元康。
家康 今川義元に属したのち織田信長と結び、ついで秀吉と和し、1590年(天正18年)関八州に封じられて江戸に入り、秀吉の没後伏見城にあって執政。1600年(慶長5年)関ヶ原の戦いで石田三成らを破り、03年征夷大将軍に任命されて江戸幕府を開いた。

2代 徳川第2代将軍 (在位1605~1623)。家康の3男。家康が定めた諸法度に基づき、
秀忠 一門・譜代を含む39大名を改易するなど、大名・朝廷・寺社の統制を強化、幕府創業に尽力。

3代 徳川第3代将軍 (在位1623~1651)。秀忠の次男。幼名竹千代。乳母、春日局。
家光 幕府の統治機構や参勤交代などの制を定め、キリシタン禁制を強化し、鎖国令を布き、諸侯を威圧して徳川氏興隆の基礎を確立。
 ・大老(1638-44):土井利勝、(1638-56):土井忠勝

4代 徳川第4代将軍 (在位1651~1680)。家光の長子。保科正之・酒井忠勝・松平信綱
家綱 らに補佐され、幕府の諸制度を整備。
 ・大老(1651-69):保科正之、(1663-65):榊原忠次、(1666-1680):酒井忠治、

5代 徳川第5代将軍 (在位1680~1709)。家光の4男。母は桂昌院。幼名徳松。
綱吉 上州館林藩主から宗家を継ぐ。越後の高田騒動を親裁し、堀田正俊を大老に任じ、譜代大名・旗本・代官の綱紀を肅正、天和の治と称される全盛を実現した。治世の後半には側用人牧野成貞・柳沢吉保を重用、服忌令や生類憐みの令を出し、社会の文明化を推進したが、人民を苦しめ、犬公方とあだなされた。
 ・大老(1681-84):堀田正俊、(1697-1700):井伊直興、(1706-1709):柳沢吉保

6代 徳川第6代将軍 (在位1709~1712)。甲府藩主徳川綱繁の長子。初名綱豊。
家宣 綱吉の養子。新井白石・間部詮房を登用して政治の刷新を志すが、在職3年で没す。
 ・大老(1711-14):井伊直X、

7代 徳川第7代将軍 (在位1712~1716)
家継 家宣の3男。

8代 徳川第8代将軍 (在位1716~1745)
吉宗 紀州2代藩主徳川光貞の4男。初名、頼方。紀州藩主となり、財政改革に手腕を発揮。将軍位を継いで享保の改革を行った。コメ将軍と呼ばれる。

9代 徳川第9代将軍 (在位1745~1760)
家重 吉宗の長子。言語不明瞭で、使用人大岡忠光だけがそれを理解できたという。

10代 徳川第10代将軍（在位1760～1786）

家治 家重の長子。田沼意次を老中に登用し、田沼時代を現出。

・大老(1784-87):井伊直幸

11代 徳川第11代将軍（在位1786～1837）

家斉 幕末の水戸藩主。治紀の子。藩校弘道館を開設して文武を奨励、鋭意藩政を改革、幕政を補佐したが、将軍継承問題で一橋派に属し、井伊大老に忌まれて永蟄居。

・大老(1786-87):井伊直幸

12代 徳川第12代将軍（在位1837～1853）

家慶 家斉の次男。老中水野忠邦に命じて、いわゆる天保の改革を断行。

・大老（1835－1841）井伊直亮

13代 徳川第13代将軍（在位1853～1858）

家定 家慶の4男。病弱で政務は阿部正弘らに任せる。跡継ぎなく、没後にいわゆる将軍継嗣問題が起きた。

14代 徳川第14代将軍（在位1858～1866）

家茂 紀州藩主斉順の長子。紀州藩主。将軍の位を継ぎ、公武合体のため和宮と結婚。大阪城で第2次長州征伐の軍を統監中に病没。

・大老(1858-1860):井伊直▽

・大老(1865-1865):酒井忠績

15代 徳川第15代将軍（在位1866～1867）

慶喜 徳川斉昭の7男。初め一橋家を継ぎ、後見職として将軍家茂を補佐、1866年将軍職を継いだ。幕末の内憂外患に直面して、翌年ついに大政を奉還。68年鳥羽伏見の戦で敗れ、江戸城を明け渡して水戸に退き、駿府に隠棲。のち公爵。

・大老職は、別の資料から作成

徳川家年代概略

2024/2/1

代	将軍	年	印	在位年	主要活動	↓
0				1590	1590：秀吉小田原城征伐、家康：関東に入封。江戸城に入る。	
1	家康	2	▽	1603-1605	秀吉死(1598,63) 1600：関ヶ原の戦い、1603：徳川家康、征夷大將軍、江戸幕府を開く 75	
2	秀忠	18	○	1605-1623	1607：家康駿府に移る、尾張家（義直）封。1609：水戸家（頼房） 1609：西国大名の人質を江戸に集める。500石以上の舟を没収。 1614:大坂冬の陣、1615:大坂夏の陣<豊臣滅ぶ・秀頼23歳,淀君43歳> 1615:武家諸法度、禁中並公家諸法度、1616：家康没(75)、鎖国 徳54 1619:菱垣廻船のはじめ、1623:五人組制度。徳川頼宣を紀伊に（紀伊家）	
3	家光	28	■	1623-1651	1624:徳川秀忠の女和子、中宮となる（東福門院） 1632:秀忠(54) 1635:参勤交代制、寺社奉行設置。伊達政宗(72)。島原の乱(1638)。大老。 1639大久保彦左衛門(80)。 1651家光(48)。大名の末期養子緩和。徳 48	
4	家綱	29	■	1651-1680	江戸明暦の大火(1657),江戸城本丸焼失。 1665、大名の人質を排す。 玉川上水完成(1654), 1680:家綱(40歳) 1673,分地制限令 徳40	
5	綱吉	29	■	1680-1709	1687:生類憐みの令発布。1693:朝鮮と竹島問題起る。 1700徳川光圀(73) ~1687 河村瑞賢,淀川を開く。1702:浅野遺臣,吉良を討つ。1709:綱吉(64) 館徳64	
6	家宣 ienobu	3	▽	1709-1712	1710 武家諸法度更新。1711江戸大火。 甲徳51	
7	家継	4	▽	1712-1716	1715長崎貿易制限令・防金銀海外流失、 徳8	
8	吉宗	29	■	1716-1745	1717大岡忠相/江戸奉行登用、1721目安箱設置、1722参勤交代制を緩める。 1720江戸町火消創設,1722新田開発奨励,1721江戸大火6度14万戸焼失,紀68	
9	家重	15	○	1745-1760	1756米価高騰蓄米禁止、1743-72農民一揆繁く10年毎50件超す、 1751:吉宗(68) 紀51	
10	家治	26	■	1760-1786	1765関東農民20万の大一揆、1768伊勢お陰参り流行。天明大飢饉1783~徳 1767 田沼意次 御用人 寛政の改革へ(1772老中)。1784 奥州大飢饉,死者10万 50	
11	家斉 ienari	51	■	1786-1837	1787 松平定信、老中筆頭となり儉約令発す。米沢藩主上杉鷹山を表彰。* 1787 天明の打壊し(米価高騰・江戸大坂の町人騒乱),1832~全国的大飢饉 一橋69	
12	家慶 ieyoshi	15	○	1837-1853	1837 アメリカ船浦賀入港、1841 水野忠邦政治革新。洋式軍備起る。 1837 大塩平八郎の乱、1840-42 アヘン戦争 徳61	
13	家定	5	▽	1853-1858	1853 ペリー来航,1853 関東大地震,1854 下田大地震/大津波, 1854 日米和親条約,1855 江戸大地震（藤田東湖圧死） 徳35	
14	家茂 iemochi	8	▽	1858-1866	1858 日米修好通商条約調印、1859 安政の大獄,1860 桜田門外の変 1864 長州征伐、* 吉田松陰(30) 紀21	
15	慶喜 yoshinobu	2	▽	1866-1867	1866 江戸・大坂打壊し運動、ええじゃないか運動 1867大政奉還 1868 明治維新 一橋 77	

265

* 全国人口2,720万人(1828年)。

出身

▽：複数年	○：10~20年	■：20年以上
-------	----------	---------

生存年齢↑

1603年 家康征夷大將軍就任

『天下普請』・・・秀吉が確立した軍役制度（大名に巨額の財政負担を負わせる）。

大名統制の手段となった。大名側から「御手伝普請」といった。

仕上り具合、工期、⇒大名家の運命を左右したので、必死に取り組んだ。

1) 第1次天下普請：1604年（慶長9年6月）、

江戸城の大規模な増築計画が**全大名**に発せられた。

- ・8月から、石垣工事の準備開始、伊豆での石材の切り出し、江戸への回漕、築城現場での石組み上げ工事（約2年）

2) 第2次天下普請：1606年（慶長11年3月）、

江戸城の外郭工事が命ぜられた。

- ・本丸、二の丸、三の丸（現皇居東御苑）、西の丸や吹上、北丸（現北の丸公園）と広大で起伏に富んだ範囲で城郭が築造された。
- ・築城の名人と言われた藤堂高虎の基本設計により、江戸城本丸とその外郭工事が**九州・四国などの34家**に割り当てられた。
- ・この34家には、池田輝政、加藤清正、毛利秀就、蜂須賀至鎮、細川忠興など、石材運搬や石垣築造に引き続く形で動員された大名も多かった。

△さらに、慶長12年3月には、天守閣（五層のXの建設と本丸工事が**関東、奥羽、信越の10家**の大名に命じられた。

- ・半年後の9月には將軍秀忠が本丸に入居して、普請に一応の区切りはついたが、天守閣は工事中であった。

この工事に動員された諸大名、とりわけ敵対する可能性のあった豊臣恩顧の西国大名達に、江戸城の攻守にわたる実力や、徳川と豊臣の差を”皮膚感覚”で実感させるには充分であった。

▶家康に逆らっても無駄だ（政治的効果）

▶「諸大名の経済力を」消耗させている。

家康がお金の時代を作った。

▽1607 家康、駿府に移る。尾張家設立（徳川義直）。

▽1609 水戸家設立（徳川頼房）

▽西国大名の人質を江戸に集める。

◆第一次普請に際しては、日比谷入り江の埋め立てと外堀の整備も進められた。

入り江の埋め立ては広大な用地を産みだし、大規模な城下町の建設が可能になった。

- ・江戸時代に大名小路と呼ばれていた現代の丸の内ほか、霞が関や桜田、西丸下（現在の皇居外苑付近）、日比谷公園の一带も時に造成されている。

△江戸前島を掘削して作られた「外濠」

- ・一方、外濠は雉子橋から常盤橋（現千代田区一ツ橋1丁目、首都高速の外橋junctionの下）から溜池付近まで、江戸外郭の東半分を半周する形で完成した。

△外濠の北側にあたる雉子橋から常盤橋付近までは、家康の入府直後に付け替えられた旧平川（現日本橋）が道三堀に合流する地点（現在の一石橋付近）までの区間を再整備して濠としたものである。

△外濠は、埋め立てられ「外濠通りに」↓

◎：仕事が増え専門業者が集まった

・石材、材木、織物、小間物など、天下普請にはあらゆる仕事を引き付けた。

◎：普請のために作られた新しい港湾施設

・江戸前島の外側に作られた「舟入堀」から、資材が大量に運び込まれた。

・八丁堀舟入・江戸前島を楕形に掘り割った埠頭

◆1607年家康、駿府に移る。**尾張家（徳川義直）設立。1609年徳川頼房を水戸に封じる。**
西国大名の人質を江戸に集める。500石以上の舟を没収する。

▲第一次天下普請の後、慶長16年（1611）になると西丸の堀普請が、**主に東北大名の14家に命じられた。**浅野長政(65),加藤清正(50)

▲**慶長18年（1613）10月、西国大名34家に「第2次天下普請」が予告された。**
起工は、慶長19年10月からの「大坂冬の陣」を前にした3月で、すでにこの段階から戦いは始まっていた。**公家諸法度奏上、池田輝政(50),浅野幸野(38)**

・動員された大名の多くは、関ヶ原の戦いで家康と戦った西軍側についた毛利氏、島津氏、あるいは秀吉恩顧の武将であった。

豊臣方との決戦の前に、敵になる可能性のある大名を総動員して、経済的にも疲弊させるとともに、恭順の意を示させる戦略であった。

・そして**大坂冬の陣**の直前の9月に工事は中止になり、普請を命ぜられた西国大名はそのまま大坂に参陣した。

・翌**慶長20年（1615）、「大坂夏の陣」**で豊臣家は滅亡し、当面の必要がなくなったこともあって工事は再会されなかった。

3) **第3次天下普請で江戸と江戸城の防御力を高めた。** 1620~

・石垣の高さを増し、枡形を築造。江戸の守りを強固にする工事。

△中止されていた第2次天下普請は、「第3次天下普請」として、再び元和6年(1620)2月に命じられ、4月に起工となった。

1) 北丸、三丸の外壁に石垣を築き、本丸の石垣の高さを増して、城の威容と防衛力を高めている。天守台の石垣工事にも着手した。

2) 内桜田から清水門までの石垣のほか、外桜田、和田倉、竹橋、清水門、飯田町口（田安門）、麴町口（半蔵門）の各枡形、大手門の石垣と枡形なども造営させた。

3) 谷筋を活かして半蔵濠や横田濠も整備された。

→工事には、**東北大名8家を含む10家が動員され、政宗は黄金2676枚を費やして大手門の石垣と枡形を築造した。**

4) その他

・平川や小石川などの増水時に、城の北側の雉子橋から鎌倉河岸の一角が浸水する

のを防ぐために、駿河台を削って隅田川に放流する放水路も作られた。

それが**現在の神田川**である。

・さらに、江戸舟入堀の対岸の八丁堀などの埋め立ても進んだ。

- ・この天下普請は、家康が亡くなり2代将軍秀忠になって最初の大規模な普請であり、江戸城の防御力は勿論、秀忠の権威も高めた。
- ・第一次天下普請により慶長年間に作られた天守に代わって、新たな天守が完了したのは、その象徴であった。

◇一方、**大阪城の天下普請も元和元年(1620)正月に発令され、64家の大名が動員され、寛延年(1629)に完成している。**・・・秀吉時代のものは埋められ、新しくなった。

◇寛永寺建立の狙い・・・上野の山も戦略拠点

第3次天下普請が行われていた頃、元和8年(1622)から寛永寺の造営が始まる。

・名目・・・「江戸城の鬼門封じ込め」

・実態は・・・政宗の脅威に対する防衛(日光街道を防ぐ)

藤堂高虎、津軽信枚、堀直寄の下屋敷などがあつたが、造営のために幕府が収公して、天海に与え寛永寺を建立した。

■第4次、第5次の天下普請はさらに大規模に！

・寛永年間(1624)から寛永7年(1630)にかけて行われた工事。

→**東北、関東、北陸の70家が7組に分けて動員された。**

・親藩大名の尾張、水戸両家や、老中の坂井忠世、土井利勝、酒井忠勝、永井尚政などの有力譜代大名も参加している。

・本丸、西丸の工事。外濠に面する外廓の石垣工事や城門築造、以前に完成した石垣の嵩上げといった増築修築。

(特色)第三次にも増して貨幣経済と市場メカニズムによって工事が進められた。

木材や巨石が集まらず、無理な工事、お金かかりすぎ等々でメンツを失くす大名もでた(忠誠心とみられた)。

■最大規模の第5次天下普請

・寛永12年(1653)に**二丸の拡張と三丸の縮小工事として開始され、寛永13年から外部工事も始まった。**

・天守は寛永14年の大修理を経て翌年に完成、外郭の門は寛永16年8月までに竣工し、江戸城の総構えが完成した。

・現存する清水門、田安門、外桜田門のほか、外部の門としては筋違橋門、小石川町、市谷門、四谷門など枳形門が完成している。

●内陸部に水運網が広がる・・・神楽坂の賑わい。

・四谷濠(真田濠)、市谷濠、牛込濠、飯田濠が整備され、さらに万治3年(1660)の神田川の整備工事により、本郷台が深く開削されて常に水が流れる状態となった。

・これにより飯田濠まで水運が通じるようになり、江戸の内陸部に水運網が広がった。
最奥部は神楽河岸である。

・ここには神楽坂を経て上州道に通じる牛込見附があり、水陸の結節点になった。
神楽坂一带には町屋が形成され賑わうようになった。

・牛込見附の遺構（石垣）は、JR飯田橋駅の近くに残されており、江戸36見附の中
中でも原型を思い起こさせるものである。

▶第5次天下普請の完成で、家康入府から約70年間、4代将軍家綱の代まで続いた
江戸市街地整備が完成した。

▲▲1657年明暦大火

明暦3年正月18～20日、江戸城本丸をはじめ市街の大部分を焼き払った大火事。

焼失町数400町。死者10万人余。本郷円山町の本妙寺で施餓鬼に焼いた振袖が空中に舞い上がった
のが原因と言われ、俗に振袖火事と称した。災後、本所に回向院を建てて死者の魂を弔った。

○復興をきっかけに、市街が再編・拡大

- ・大火直後から、幕府は復興に取り組み、屋敷の再建資金を被災した大名、旗本に与えた。
- ・焼失した町々にも銀一万貫を与えて、経済インフラの復旧を図った。
- ・同時に、全国から人、モノ、カネが集中し、過密化していた江戸の延焼リスクの低減対策も始めた。

・江戸城内の過密解消策一御三家の屋敷を城外へ移転させる等して、空地の確保。

・町地では一白銀町（神田）、四日市（日本橋）、飯田町（麹町）を移転させて

火除け地（防火用の空地）を作るとともに、

→家屋の庇（ひさし）を強制的に切らせて類焼防止と道路拡張を図った。

→焼けた土で築地などの埋め立て地も造成した。

○とりわけ復旧・復興を通じて過密化していた大火前の中心部が大きく変わった。

・また本所、深川などの大川（隅田川）の対岸地域も市街地化していった。

・さらに、万治3年(1660)、天下普請として伊達綱宗が駿河台を開削し、洪水時の
放水路であった神田川の舟運が可能となった。大火から3年後のこと。

→それにより、神楽坂河岸や牛込船河原町（現在新宿区揚場町、神楽坂1丁目、船河原町）
の三湊（河岸）が誕生した。

・江戸の内陸部に水運でアクセスできるようになり、市谷・四谷・赤坂・牛込・早稲田・
高田・目白・戸塚・小日向・関口などの町地が生れる。

・こうした、隅田川の対岸と江戸内陸部への市街地の拡大により、“大江戸”の骨格が
形成され、のちの百万都市江戸の基礎となったのである。

参考書

2024/2/1

- | | | | |
|--|-------|--------|--------|
| 1. 日本史年表・地図 | 吉川弘文館 | ¥1,300 | |
| 2. 都市計画家（アーバンプランナー）徳川家康 | 谷口 榮 | ¥980 | Mdn新書 |
| 3. 地図で訪ねる歴史の舞台（日本） | | ¥2,000 | 帝国書院 |
| 4. 明治の地図で見る鹿鳴館時代の東京
2007第一版
・江戸時代の町→明治の姿（大多数の武家屋敷が国、軍の施設に代わった） | | ¥1,900 | 学習研究社 |
| 5. 大江戸鳥俯瞰図 2013/3/30 | | ¥2,600 | 朝日新聞出版 |
| 6. 家康の誤算
・神君の仕組みの創造と崩壊 | 磯田道史 | ¥900 | PHP新書 |
| 7. 江戸--平安時代から家康の建設へ
2021/12/25 | 斎藤慎一郎 | ¥820 | 中公新書 |
| 8. 大江戸鳥瞰図
2013/33/30 | 立川博章 | ¥2,600 | 朝日新聞出版 |
| 9. 江戸城の全貌 | 図書館 | | |
| 10. 徳川幕府の制度 | | | 新人物往来社 |